

# 新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ 今後の発生状況はどうなっていく？

## ～呼吸器系ウイルスの疫学等に関する調査・研究～

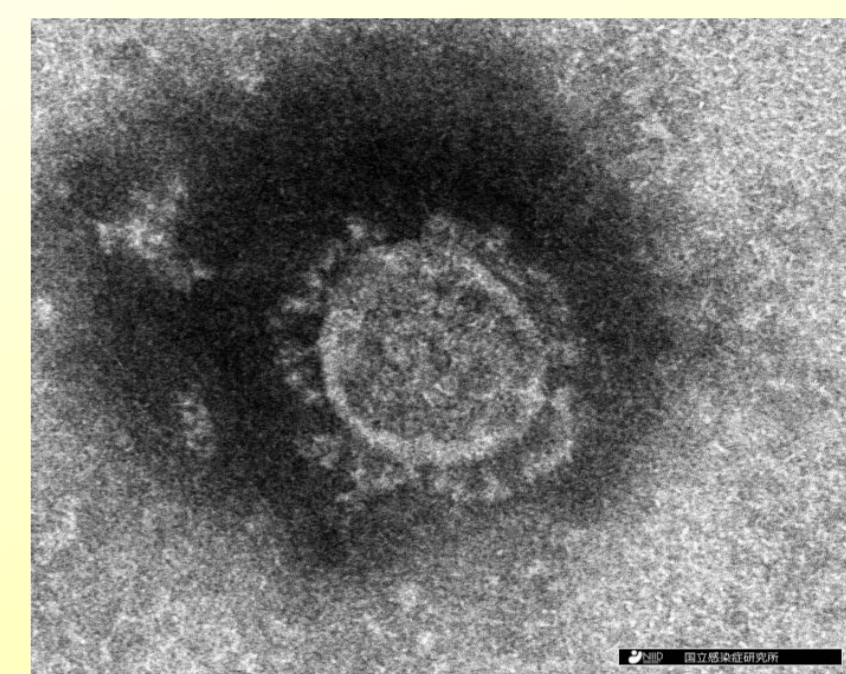


長野県内の新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等のウイルス性呼吸器感染症を中心に、患者発生状況やウイルス株の変異などを継続的に調べ、予防対策につなげます。

### なぜ研究が必要なの？

2023年5月8日から、新型コロナウイルス感染症は感染症法上の五類感染症に分類替えされました。しかし、流行の繰り返しや、新たな変異株が出現する恐れがあるなど、注意が必要な感染症のひとつに変わりありません。そのため、流行しているウイルス株の遺伝子系統を確認していくことは重要です。

また、同様の呼吸器感染症が発生した場合に備え、原因となるウイルスを迅速に検査する体制を整備しておくことは、今後、感染症の危機管理対策として必要です。



新型コロナウイルスの電子顕微鏡写真  
(国立感染症研究所HPより)

### どうやって把握するの？

#### 新型コロナウイルスの変異株

流行している新型コロナウイルスの全ゲノム遺伝子配列を調べ、国立感染症研究所が中心となって実施している病原体ゲノムサーベイランスシステムで解析し、新型コロナウイルスの分類（BA.2、BA.5など）を調べます。また、感染経路などを比較したい場合、ウイルスの全ゲノム遺伝子配列からハプロタイプネットワーク図を作成し、疫学情報との関連性を調べます。

#### 呼吸器系感染症（インフルエンザと新型コロナウイルス）の流行状況等を把握

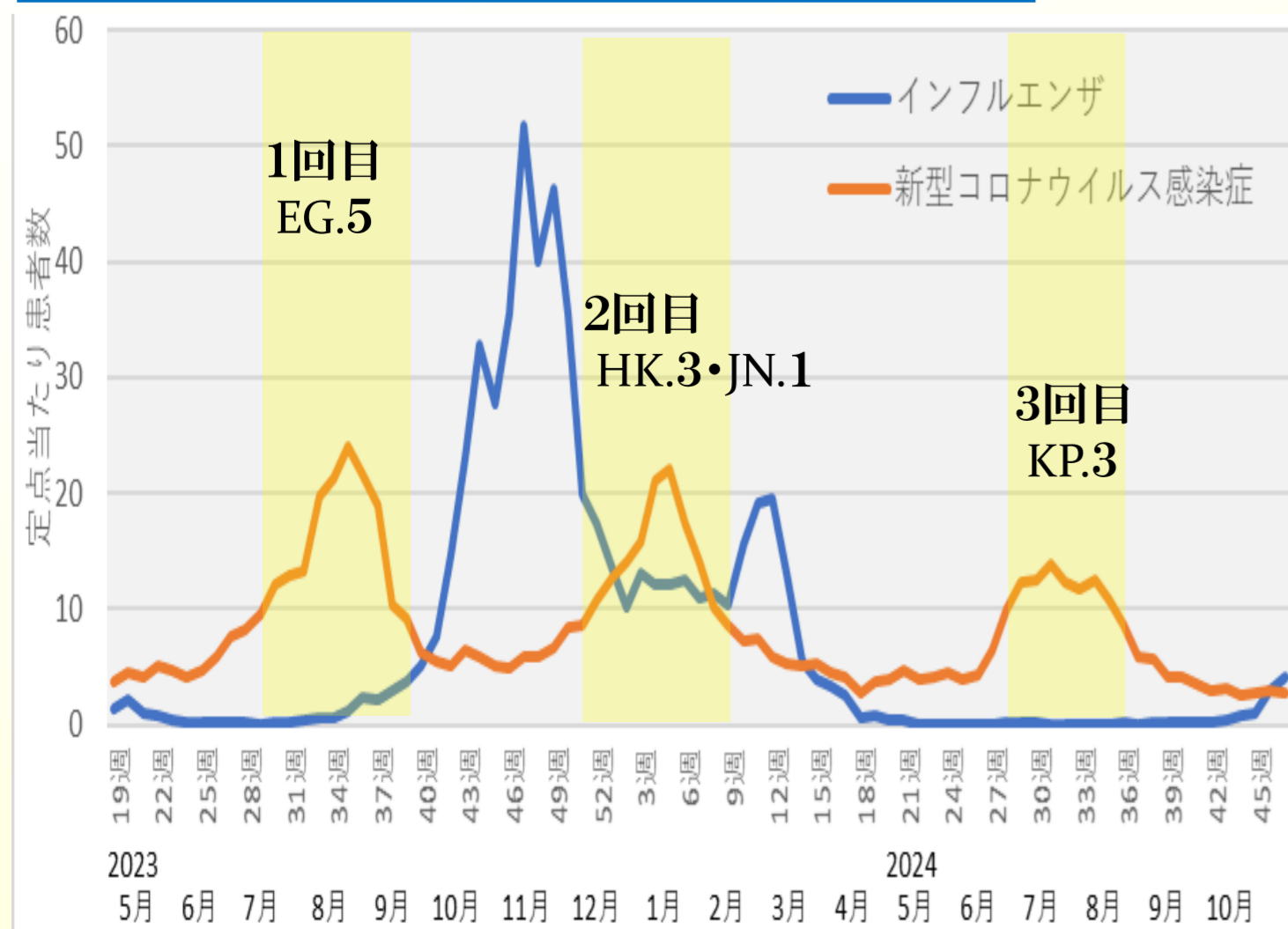
呼吸器系感染症の流行状況（主にインフルエンザと新型コロナウイルス感染症）やインフルエンザウイルスの検出状況について調べます。

#### その他の呼吸器系ウイルス検査の体制の整備

R S ウイルス、ライノウイルスなど呼吸器系感染症の原因となるウイルス検査について、結果が迅速にわかる核酸多項目同時検出法による検査実施を検討します。

### これまでに分かったこと

#### 新型コロナウイルス感染症及びインフルエンザの流行状況



2023年5月から2024年10月までの新型コロナウイルス感染症とインフルエンザの定点当たり患者数の推移です。

2023/24シーズンのインフルエンザは、AH1pdm09亜型とAH3亜型の同時流行で、その比率はおおよそ1：3でした。また、2024年に入ってA型からB型ビクトリア系統の流行に移行していました。当所で分離したAH1pdm09亜型ウイルス株の一部にプローブ領域に変異のあるウイルスが確認されましたが、同様のウイルスが流行している状況は確認されませんでした。

新型コロナウイルス感染症は、定点当たり患者数が10人以上を示した期間が3回ありました。1回目の期間のPANGO系統は、XBBから派生したEG.5が最も検出され、2回目の期間はXBBから派生したHK.3とBA.2.86から派生したJN.1が混在した状況で、3回目の期間はBA.2.86から派生したKP.3が主流の流行が確認されました。